

# 加藤のコラム

第20号（2018年3月）

冬が終われば春が来ます。冬の役割のひとつに、春のワクワク感を高めるといふのがあつるように思ひます。冬が助演俳優だとしたら、それは共演者を引き立てる最高の仕事です。そして、春には、新しいスタートの彩りを飾るといふ重要な仕事があります。

ゆいもこの春からスタッフの入れ替わりもあり、また新たな気持ちで平成30年度のスタートをきることになつます。スタッフの入れ替わりは利用者さんにとつてもチームにとつてもシビアなことではあります、新しい空気を入れることでマンネリや支援の形骸化を防ぐことができ、長い目で見れば必要不可欠な営みだと思ひています。

そして、私事ではあります、この加藤もこの3月末日をもつて、ゆいでつ任務を終え、4月から新しいチャレンジをすることになりました。埼玉県所沢市にありつ、国立障害者リハビリテーションセンター内の発達障害情報・支援センターに新設される発達障害支援推進官として着任します。

この第20号のコラムは、お別れのごあいさつを述べさせていただくことにします。

ゆいに着任したのは平成26年4月でした。実績と呼べるものはひとつも残せず、存在感もまったく示せず、間違いなくゆいの歴史に名を刻むことがない仕事ぶりだったと自分でも認識してあります。ただ、自分にとつては、丸4年といふ短い時間でしたが、職業人生の中でとても貴重な時間となりました。

◇利用者さんへの感謝◇

誤解を招く表現かもしれませんが（誤解しないで読んでください）、「めんこいなあ」と思ひわせていただきました。自分がなぜこの仕事をしているのか、それは彼らのことがただただ単純に好きだからだといふことを再認識できました。現場スタッフと利用者さんとの関係や取り組みをじゃましないように、じいちゃんのようなスタンスを心掛けていたつもりですが、じゃましていることも多々あったかもしれせん。この場を借りてお詫び申し上げます。

◇ご家族のみなさんへの感謝◇

言ひたいことはたぶん山のようにあったのではないかと思ひます。ムダに元気だけれどたいした仕事もしていない所長へのがっかり感もあったのではないかと思ひます。でも、あたたかくご支援とご協力をいただきました。助けていただいたことがたくさんあります。心から感謝申し上げます。

◇スタッフのみなさんへ◇

加藤が活動エリアをうろうろと歩き回つているときに目に入るスタッフの仕事ぶりに確かな手応えを感じ、外勤から戻つてきたときにはほつとした思ひを感じ、チーム力が高まっているなと思ひえる瞬間に心地よい高揚を感じ、組織で仕事をするといふ楽しさと喜びを味わうことができました。これはとても大きな財産です。一人でどれだけ頑張つても味わえないことだから。

お世話になりました。ほんとうにありがとうございました。

4月からは佐藤貴志といふ者が後任として着任いたします。支援力も高く人柄も温厚で、間違いのない人物です。それに、残つたスタッフたちもみな前向きでいいやつばかりですので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

短い間でしたが、ほんとうにありがとうございました。

みなさまに多くの幸せが訪れるよう、祈つてあります。